湘友会報

題字は天野前会長

発行責任者
湘南高等学校 湘友会
桜井睦文
藤沢市鵠沼神明5-6-10
電話藤沢(26)4151

印刷所
藤沢印刷株式会社

募金600万円突破
31回以降の会員や有志も協力

50年度は一六五万余円

49年に引続き募金期間を四年延長したところ、三面に記載のごとく三二五名の応募があった。この中には、31回以降の会員40名の協力もふくまれ本部を感激させている。この外、20回4年制の会から特別寄付も寄せられ、計一六五万三三〇〇円となった。

この結果、総計は六〇八万三三〇〇円となった。

未応募の方は今からでも

役員会は、各位の協力に心から感謝しているが物価の上昇傾向のため、母校の協力による入会金の増額があっても、会報の郵送代に終ってしまうことを予想し、更に未応募の会員や、有志の厚意を期待することに決定した。

入会金を二〇〇〇円に
母校の協力で増額内定

十四年も前からの総会で入会金の増額や納入方法につき審議されて来たが、機が熟さず今日に至った。

母校は、49年度から財政再建のため募金運動を展開している湘友会の状態を考慮し、貨幣価値の変動、物価上昇も考え合わせて、このほど入会金の倍額納入を内定した。

全・定・通三課程が足並みをそろえての増額は校長先生始め先生方のなみなみならぬ熱意と努力によるものである。ここに感謝の意を表したい。

ごあいさつ

湘友会長　増田弥太郎

折角の連休もあいにく、雨続きでしたが、美しい新緑が目にしみる今日この頃でございます。会員の皆様にはいよいよお元気にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

各位のご協力に感謝

昨年度の会報に、募金状況を掲載いたしましたが、その後も応募が続き、お陰さまで現在合計募金は約六百万円。二ヶ年で延人員一千余名です。会員の皆様のご厚意に対し、重ねて厚くお礼申し上げます。

また母校は、本会の財政状況と、募金運動に理解を示され、来年度より、全定通そろって、入会金を倍額にすることを内定されました。校長先生始め諸先生のご高配と、父兄の方々のご好意に感謝申し上げたいと思います。

何しろ、封書は二・五倍に値上がりし、会報の発送料だけで、百万円を越えるようになりました。入会金が増額され、会員各位の募金も順調な成果を収めてはいますが、会の財政の将来は決して楽観は許されますまい。一段と運営の工夫を要すると思っております。それにしても、校内幹事の先生方のご努力に改めてお礼を申し上げたいと思います。

母校の増学級

ご承知の通り、全日制は四月より二学級ふえて、十二学級になりました。入学式の模様を写真で見ましたが、さしもの大講堂も新入生と父兄とでいっぱいです。一学年が五百四十名、私どもが在学していた湘中時代の全校生徒とほぼ同数です。

全定通の三課程をかかえる母校ですから、増学級をするのなら、せめて余裕をもってと思いまして、隣接地の購入について湘友会も協力いたしました。然し県財政の逼迫はそれすらもうけいれませんでした。文字通りのマンモス高校の悪条件を背負って校長先生始め先生方のご苦労は想像以上でありましょう。

五十余年の母校の歴史は決して平坦な道ばかりではなかったはずです。それでも先生方のご努力と、生徒諸君の良識で発展向上を続けて参りました。悪条件の現状も母校は必ず克服してくれるものと信じております。それにしても湘友会もできるだけ協力いたさねばならないと思っております。

終りに会員の皆様のご発展と、母校のますますの充実をお祈りいたし、ご挨拶とします。

12クラスの大規模校に
5月に富士で新入生訓練

創立以来の最大規模にふくれ上がった母校の現状はどうか。新入生のもようはどうなのかと、学年主任をしている**永石先生**（24回生）にたずねねてみた。

入学式の写真（下欄）で見るように確かに多い。五四〇名が12学級に分かれ新校舎の各階に4クラスずつホームクラスを占めているのはまとまりがよい。

しかしベビーブームの頃は一クラス56名もつめこんだ学年もあった。

音響の悪い新校舎

その点現状の方が恵まれてはいる。景色はよいし、日当たりはよし、アルミサッシで新しいだけに快適。床がリノタイルなのはいただけない。それより、天井を張らずコンクリート打ちはなしであるので、音響面が甚だ悪い。県財政のしわ寄せで、名高校とも困っている。先生も生徒も講義に困難を感じている。殊に英語のテストのヒヤリングには生徒が困った。

富士の休暇村に一泊

新入生だけに試みたが、5月6・7日、遠足を兼ねて、一泊集団訓練を行なってみた。富士の西湖の近くの飛行場跡の施設「富士緑の休暇村」を利用した。12台のバスを連ねて行ったが、最後尾の車が到着するまで時間がかかる。ずい分多いなと改めて感じた。

入学後日が浅いだけに、まだクラスのまとまりに欠け、また時期の設定施設等検討すべき点はあるが、自然の中で一泊を共にした事など成果はあったと思う。夜興奮するのか、なかなか就寝しない。殊に女子にその傾向がある。等先生は現状や対策を語ってくれた。

母校は先生方が意志統一して努力する点に特徴がある。先生方が腰を入れて指導し、生徒はクラブや対浦高戦、文化祭、体育祭、クラス対抗等の学校行事を進めるうちに、上級生の指導や仲間の連帯感も生まれ、大規模校の欠点を克服していくものと期待される。

湘友会総会 のご案内

6月20日（日）午前10時（文化祭当日）

案内状はさし上げません

坂本元雄氏（1回生）の講演

51年度湘友会総会は6月22日（日）大会議室で開かれる。会務報告、会計報告、監査報告、財政確立の件、規約改正、役員改選、支部報告等を行なう。

その後坂本元雄氏の講演、懇談会（昼食）、会費不要。軽食の用意があります。

当日は、**文化祭**で、生徒の研究発表・展示会・演劇等があります。

駐車場は用意してありません

一湘会のご案内

51・6・20(日)（総会・文化祭当日）**午後4時**

角若松別館（江の電・湘南海岸公園下車2分）

藤沢市片瀬四―十八　電話〇四六六(23)一七一一

旧師の為定・塚本・香川先生をお招きしております。湘友会総会・母校―の文化祭に出席後、ご参会ください。

（幹事。増田・篠原・西口・井本・相原）

先生方の異動

ご退任

高田敬子先生（全・英語）

田中宣一先生（全・国語）成城大へ

秋山照男先生（定・英語）青山学院短大へ

ご転任

岩崎　滋先生（全・理科）舞岡高へ

市村英次先生（定・英語）向の岡工高へ

高橋義朗先生（事務）横浜出納事務所へ

ご着任

大木正義先生（全・国語）日野高より

溝口典彦先生（全・理科）相模原高より

石塚崇先生（全・理科）秦野高より

亀井洋司先生（全・英語）光陵高より

吉岡章夫先生（全・数学）平塚工高より

後藤信夫先生（全・理科）日本大学大学院卒

本多和子先生（全・保体）東京教育大卒

江口則子先生（全・英語）国際キリスト教大卒

藤田一平先生（定・英語）北陵高より

土屋哲二先生（通・事務）川崎技術高より

増築校舎 思い出がまた一つ消えた

写真は、玄関西例にスタンドまでせり出して建てられた4階建（一部2階建）の新校舎です。

位置は、木造校舎時代の小使室の西南の松林。古い先輩たちの夢の跡ではありませんか。皆さんが冬鳥森を見おろしながら陽なたぼっこした芝の斜面も松もなくなりました。登校用の坂道を登ると、屏風のようにそびえるコンクリートの建物です。

大体育館を埋め尽した入学式新入生と父兄⬇

←校長室用戸棚を26回合同同期会の席上寄贈

18回生からの寄贈➡
小会議室の机椅子（十二万円）

旧師恆存先生も出席して 東京の会

1回生の赤木・天野君の勧めもあって、菅高重（2回）君、石橋湛一（7回）君らの骨折りで、久しぶりに東京在住者、在勤者の会合が、11月8日（土）午後二時半から行なわれた。会場は呉君の関係する赤坂東急ホテル。白髪の大先輩から、26回あたりの働き盛りまで、六十名が集合。

菅君・赤木君の経過報告。来賓で見えた福田恒存先生の、不況就職難であったこと、担当した英語の授業、赤木校長始め諸先生の思い出話には、一同興味深く耳を傾けた。現校長古屋先生が所用で出席できないので、代って添田君（7回）と、校内幹事、桜井君（18回）鈴木総一君（22回）の母校・同窓会報告等があって、懇親会に入った。

2回生東慶寺で 慰霊祭

菅高重君の骨折りで、2回生が50年6月12日土曜の午後、東慶寺で、恩師級友の慰霊祭を行なった。住職の井上禅定君（3回）が導師となり厳かに進行。恩師遺族代表として赤木君（1回）、同窓生遺族代表として天野君が焼香した。

17回同期会

51年4月17日（土）甘糟三郎君の江の島海浜ホテルで17回卒業生の同期会を開催した。

恩師6名、母校より桜井先生（18回）のご来駕を得て、同期生四十名が出席。33年ぶりの顔ぶれも多く、懐旧談に花を咲かせた。残念だったのは松川・直井・平田・八巻の諸先生がおかげんを悪くして、ご出席がかなわなかったことである。3年後にも開催の予定である。

幹事 山本・村上 波多野

（竹松記

松川先生を囲んで7回生

11月7日・味岡で

サッカーの山中敏夫君が久しぶりで北海道から出て来て母校を訪れたので、添田君、外岡君が幹事となり「味岡」で同期会を11月7日夕刻より開いた。何分にも急なことなので、藤沢近辺在住者に限って連絡。松川先生を招き、池田・金井・小川・杉山正・庄司・外岡・添田・武田・松木・矢野・山田・山中の十二名が参会。卒業以来という人もあって顔を見会わせても誰だかわからない。恩師より年長に見える会員もいる。

自己紹介が終り、酒がまわり出すと、四十三年前の悪童に還って、思い出話や級友の動静、さては嫁取り話も出て、時間のたつのを忘れた。

恵比寿屋で恒例の22回生

22回生の恒例会は、1月14日数えて十回目。会場は例によって永野長生君経営の江の島の恵比寿屋。

ウイスキー持参で続々集まる者30名。級主任の金子節常先生と添田先生が招かれた。瀬高弁護士の司会は、さすが手なれたもの。金子先生挨拶の「そーだようおめえよう―」は戦時中の勤労動員や戦後の湘南生活を思い出させて喝采を浴びた、当時の中学生も齢を重ねて47歳。それぞれの分野の中心人物として活躍。髪も白いものが目立って来た。

「来年は卒業満三十年。永野氏の慰労も兼ねて、同期の西島（旧姓田中）桂吉君経営の吉野旅館にて一泊で行なうべえ。」という動議が司会より提出され異議なく可決された。

22回生は今から楽しみに当日の盛会を期待している。

26回合同クラス会

記念に書類戸棚を寄贈

昨年6月8日に赤木体育館で合同クラス会を開催。浅井・松川元校長を始め旧師の出席も多かった。会員と来賓との宴席で、なつかしの体育館もいっぱいになった。

この会を記念して、校長室用にりっぱな木製戸棚を寄贈し学校を感激させた。記念写真の会員は、卒業後満24年で、下の写真のごとくごらんの通りの脂の乗りよう働き盛りである。

11回生平塚で会合

毎年同期会を催す11回生は菊薫る11月8日（土）平塚魚忠会館で、会合をもったが恩師塚本・加藤両先生も元気な姿をお見せくださった。

今回は、平塚の同窓生の参加が通常少ないため、平塚で開催したところ、地元の新顔ら五人を含め三〇人が参加して、まれに見る盛況であった。特に卒業以来音信不通の菅原君が出席したのが目についた。

（伊藤公雄記）

大学進学状況

医学部 志望者大幅増

昨年あたりから医学部志望者の増加傾向が著しく本年は東大始め、国公立大の医学系に34名、私立15名が合格した。昨年50度の国公立22名、私立14名に比較して大幅な増加を示している。

昭和51年度　各校別合格者数（全日制）（ ）内は現役. □内は全国順位

	本年	昨年
北大	7 (1)	6 (3)
東北大	7 (3)	5 (3)
岩手大	1 (1)	――
千葉大	16 (12)	18 (8)
東大 [12]	52 (25)	60 (30)
筑波大 [12]	8 (4)	9 (6)
お茶大	7 (6)	4 (4)
芸大	4 (1)	2 (0)
東工大	22 (13)	12 (5)
一橋大 [6]	14 (5)	10 (5)
水産大	1 (0)	――
金沢大（医）	1 (0)	2 (1)
新潟大（医）	3 (1)	――
名大	1 (0)	3 (1)
浜松医大	2 (0)	――
京大	3 (2)	5 (1)
三重大（医）	3 (0)	――
阪大	2 (0)	1 (0)
富山医大	1 (0)	――
防衛医大	1 (0)	1 (0)
弘前大（医）	2 (1)	――
秋田大（医）	1 (0)	――
群馬大（医）	2 (1)	1 (1)
埼玉大	1 (0)	2 (1)
電通大	2 (1)	2 (2)
東医歯大	2 (0)	4 (2)
東外大	3 (1)	4 (3)
東学芸大	3 (1)	3 (2)
農工大	5 (3)	1 (0)
横国大 [6]	36 (20)	47 (25)
信州大	7 (4)	2 (1)

	本年	昨年
名工大	1 (0)	――
静岡大	4 (1)	――
島根大	1 (0)	――
都立大 [6]	10 (6)	8 (6)
横市大	12 (6)	19 (9)
早大 [3]	163 (71)	144 (55)
慶大 [1]	146 (78)	96 (47)
上智大	32 (8)	32 (17)
学習院大 [8]	22 (10)	17 (7)
中大	25 (8)	20 (7)
立大	11 (7)	9 (5)
明大	14 (2)	10 (4)
青山大	6 (3)	12 (6)
明学大	2 (1)	3 (0)
法大	2 (1)	2 (1)
日大	2 (0)	5 (1)
津田大	7 (5)	5 (3)
東女大	3 (3)	7 (5)
日女大	17 (12)	10 (9)
清泉女大	2 (2)	――
共立女大	1 (1)	――
フェリス大	1 (1)	――
聖心女大	1 (1)	――
相模女大	1 (0)	――
ＩＣＵ	2 (1)	2 (0)
理科大	20 (6)	35 (8)
東海大	4 (2)	7 (0)
武工大	9 (1)	8 (0)
芝工大	1 (0)	4 (0)
東薬大	2 (1)	3 (2)

	本年	昨年
明薬大	3 (2)	――
共立薬大	2 (1)	4 (3)
星薬大	2 (2)	――
昭和大	3 (0)	1 (1)
東京女医大	3 (1)	――
東邦大	1 (1)	4 (2)
順天堂大	2 (1)	1 (0)
北里大	3 (2)	1 (0)
東京歯大	1 (0)	――
麻布獣医大	1 (0)	――
国学院大	6 (5)	2 (1)
成蹊大	2 (0)	――
成城大	2 (0)	6 (0)
東経大	1 (1)	1 (1)
鶴見大	1 (1)	1 (0)
東農大	1 (1)	――
同志社大	1 (0)	1 (0)
和光大	1 (0)	――
社会事業大	1 (1)	――
駒沢大	1 (0)	――
独協大	1 (0)	――
ソウル大	1 (1)	――
武蔵美大	2 (0)	2 (2)
多摩美大	1 (0)	1 (0)
創価大	1 (0)	――
県立外語短大	1 (0)	――
その他		23 (8)
計	789 (364)	709 (314)

都落ち

斉藤松一朗（2回）

大正の末期、東海道戸塚の小学校を卒業したわたしは、本来なら神中か横浜二中に行きたいところだが、安全をふみ、湘南中学に都落ちしたつもりで入った。

ところが、赤木校長が「神戸一中を凌いで、日本一になるのだ」と訓辞するので驚いた。しかも剣道の高野錬士、美校の白浜主任教授等、文字通り一流の人物を講師に招聘して謦咳に接したのでだんだん妙な気になった。

好きなテニスに打ちこんで五年生になり痔をわずらって一ヶ年の入院生活で、もう一度やり直しを覚悟していたら、中尾担任が補習科を作るが、入るなら一応卒業させてやるとのこと、試験を受けて落第する奴からみれば願ってもないことだ。そのころ金持先生から、校長の前で「勉強の一流は、伊原や天野などが先行しているから、君はテニスの道を行け」と言われたので志が決まった。

テニスは早慶だが、まずくすると補欠で終る恐れがある。田舎の高校にかじりつけば、どこかの帝大にはひっかかる。このコースで主将になることにし、当時岡野平太氏を体育教官に持ち、東洋一の大グランドを擁した水戸高校に入り、フロックで東大へとテニスに精進したが、日本四位に終った次第である。

赤木校長の訓辞は誠によくきいて、卒業後もクラブのマネジャーをしたり、今もって六十面さげながらテニスをやり、住友の擁するデビスカップ選手に大いに幅をきかせている。

推理作家　斉藤栄君を囲む会　26回生の有志（於ホテルオークラ）

百三十名の盛況

第20回4年制同期会

湘友会へ特別寄付

五月時の五月九日（日）午前11時より、浅沼、井上鼎、鏑木、千田、春原の諸先生、並びに本部の桜井先生（18回）をお招きして、約百三十人が会し、盛況裏に行なわれた。

鏑木先生のピアノ伴奏による校歌斉唱、枡酒のサービスもあって、会場の世界貿易センタービル39階、レストランプルニエは、しばし置酒歓語の坩堝と化した。午後三時、大久保千仞君の音頭で「ああ紅の血は燃ゆる」を大会唱、亀井幸夫君の手じめで宴を終了、記念撮影後、名残を惜しみつつ解散した。（長谷川記）

28回卒・旧21組の会

毎年組かえが行われ、中館一階の木造校舎の教室時代。秋の遠足、翌春の関西旅行の思い出も多く連帯感も強い旧21組。今年は3月21日、鎌倉の新田中の会場に18名が集まった。林・安間・村田・山田君が行き届いた幹事ぶり自己紹介の時は丸紅勤務の篠原君が人気の中心。昨年鎌倉高校長を最後に勇退した添田旧主任に、見事な記念品と寄せ書を贈呈。先生「最良の日」と大感激。つわ者たち一次会では納まらず、二次会場のあらめやへとくりこんだ。

湘南紳士録 ⑮

江見俊太郎無頼控

黒川輝郎（17回）

荒間蒼海